

今回の東京大学、企業訪問は私にとってとても貴重な体験となりました。その中でも東京大学と、企業訪問について書きたいと思います。

1日目の午後から企業訪問がありました。私たち9班は宇宙航空研究開発機構（国立研究開発法人）宇宙科学研究所、すなわち JAXA 相模原キャンパスへ行ってきました。私は、幼い頃から宇宙に興味がありました。TVや記事に宇宙に関する事が書いてあったり、放送されていたりすると、ワクワクしながら夢中で見ていました。また、宇宙兄弟というマンガに出会ってからは、JAXA や NASA という企業に憧れ、詳しく知りたいと思い始めました。しかし、部活や受験勉強でいっぱいだった中学校では宇宙に関わる時間はあまりありませんでした。そんな中、高校1年生の時に東北大学で吉田和哉さんの講話を聞き、宇宙への興味が再び湧きました。そのタイミングで学校の企画で宇宙に興味のある仲間と集まり、JAXA へ企業訪問をしに行けるなんて夢のようです。まず、このような企画を作ってくださった二高の先生方と、快く企業訪問を引き受けてくださった宇宙科学研究所のみなさまに感謝をしたいと思います。本当にありがとうございました。

宇宙科学研究所では、科学衛星、ロケット、大気球、宇宙理学、宇宙工学、宇宙環境利用学の6つの内容の活動を行っています。私達9班は宇宙工学に興味があり、宇宙科学研究所を訪問する事を決めました。

今回の訪問の担当をしてくださった、利岡さんには、まず衛星を作っている所へ案内していただきました。そこでは今年中に打ち上げされる予定のジオスペース探査衛星（ERG）が作られていました。ERGは、地球に近く、地球と影響を及ぼし合うジオスペースという宇宙空間の中の、最も高エネルギー電子が飛び交う領域であるヴァン・アレン帯を探査します。しかし、ヴァン・アレン帯は高エネルギーの電子が飛び交う領域ですので、様々な環境に耐えなければなりません。そこで、宇宙科学研究所では真空、高温、低温や放射線の環境を作り、ERGがそれに耐えられるかどうかという実験を行っていました。また、衛星を回して、軸が安定に取れているかどうかという実験も行っていました。

次に、衛星の管制室へ案内していただきました。私たちは最初、映画のシーンにあるような管制室を想像していましたが、実際は想像よりも小さくて、こんなものかと思いました。しかし、説明を聞くと24時間体制で衛星の状況を確認しないといけないことや、あの有名な「はやぶさ」も私たちが見た管制室で指示をしていたという事を聞くと、凄いところなんだなあ、と思いました。その他にもロケットや、気球についてなど、たくさんの事について話をしていただきました。

私はよく、宇宙関係にお金を費やすくらいなら、貧困な地域を経済的に豊かにする事や、地球の環境をより良くする事などの地球上の大きな問題を解決しなければならないのではないのか？という問題についてよく考えます。利岡さんもおっしゃっていた通り、宇宙について何かが分かったとしても直接的に生活が変わるわけではないため、宇宙に関する仕事はお金にならないと思っていました。しかし、今回の企業訪問を終えて火星への移住計画などの夢のような事が実現可能なのではないかと思うようになりました。宇宙科学研究所でも、地球と宇宙を繋ぐエレベーターの開発が進んでいるという掲示板を見ました。私は今回の企業訪問を通して、働いている人々はこのような空想のような企画が実現可能であるという事を分かっていますが、宇宙にあまり関わりのない一般の人々は、地球と宇宙を繋ぐエレベーターを現実にできる、できないという事をあまり考える事すらないと思います。だから、私は様々な人々に宇宙について研究することは、

私達の生活に直接関わるといふ事を伝えていきたいと思いました。そして、できるならば自分もこのような仕事に就き人のために一生懸命に働きたいと思いました。

そして企業訪問を終え、1日目の夕食後に二高OBであり東大生である先輩方の話を聞きました。その中には宇宙科学研究所に大学院生として通っている人もいて、改めて二高の凄さを思い知らされました。私でも頑張れば東大に行けるし、そのチャンスを作ってくれる二高に在学している事はとても幸せな事だと思いました。3人の方々に話を聞いて、1番印象深かった人は千葉さんです。千葉さんは斬新なアイデアを生み出し、社会で上手くやっていく方法を喋ってくださいました。千葉さんはこれからの社会は学歴社会ではなくなり、千葉さんにとって東大卒という肩書きは邪魔であるとおっしゃっていました。千葉さんは、東大卒ゆえに高度な知識があるという前提で見られることがマイナスに作用されることが多いため自分にとって不利になってしまうそうです。私は憧れの東大生が予想外の事をおっしゃっている事に驚愕してしまいました。しかし、全国から集まった仲間と切磋琢磨し、たくさんの刺激を味わえるハイレベルな東大はそのマイナスでさえも吹き飛ばしてしまう素晴らしさがあるとおっしゃっていました。二高ですら色々な人々が集まって活発で楽しいのに、それが全国規模で集まるのは私の想像を遥かに超えるだろうと思いました。千葉さんは、常にアイデアを考えておりコマーシャルなども分析をしていました。そのコマーシャルの一つとして、「キリンビール 47 都道府県の一番搾り」という企画を例に出していました。47 都道府県それぞれの味を作る事によって、日本各地の特徴を楽しめたり、地方の売り上げを伸ばす事ができたり、お土産にできたりと様々なメリットができるそうです。私は何度もそのコマーシャルを見ていましたが、それが斬新で素晴らしいアイデアだとは思いませんでした。このように日常から仕事に活かせるアイデアを楽しみながら見つけている所に私は感銘を受けました。私も楽しみながらそこら中に転がっているアイデアの種を見つけていきたいです。斬新なアイデアを生み出すためには、仕事と遊びと勉強のバランスを上手く取りながら生活する事が大切だとおっしゃっていました。

そして2日目になり、東京大学を訪れました。私はこの研修を行う一週間ほど前に東北大学のオープンキャンパスにも行った際に高校とは比べ物にならないほど規模が大きい事に驚きましたが、東大も東北大学とは比べ物にならないくらい大きく二重の衝撃でした。

今回の研修はとても有意義な物になりました。東大や宇宙科学研究所というものは私にとって憧れであり、自分がそこへ行くなど考える事はあまりなかったです。しかし、私が通っている二高からOB、OGが夢の場所へ行っていて、しかもその人達からたくさんのお話を聞く事ができました。それによって、私にとって憧れであった東大や宇宙科学研究所が憧れではなく私の努力次第で現実的に行けるのではないか、と思えるようになりました。今回の東大、企業訪問は自分にとってとても大きな収穫となりました。